

平成28年度後期 学部(群)教育改善計画

学 部 (群) 名	食産業学部(群)
学部(群)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学部(群)全体で改善すべき重点課題について3つ挙げてください。	
①	前期同様、各教員は授業の理解度を深めることを重点的に取り組んでいるが、いまだ理解が進まない学生が少なからず存在している。授業時間内での理解を深めるため双方向型授業やアクティブラーニング授業等の実施は急務であると考える。
②	座学講義科目については、予習・復習など授業外の学修が相変わらずなされていない。事前、事後、自己学習を推進するため、課題の出し方の工夫が必要と考える。
③	授業評価の回収率が10～30%と前期に比べ向上したが、さらなる改善が必要である。また、アンケートの「授業の進め方の良かった点」、「改善すべき点」についてのコメント記入も低調であったことから、記入を促進する手立ても必要である。
1-(2). 上記の3つの課題をそれぞれ解決するための取組と、その具体的な進め方(5W1H等)について書いてください。	
①	本課題については、9月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、まずはグループワーク、ピアサポートシステムについて学群・研究科の教務委員会を中心に講習会等を企画・実施する。
②	本課題については、9月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、後期授業内でのグループワークやLTD (Learning Through Discussion) を通じた課題発掘による授業外学修の定着実現、さらに定期的な小テストや練習問題等の実施について、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。
③	本課題については、9月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、授業時間内(14回目、15回目)での実施を、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。また、アンケートのコメント記入の促進策についても書式レイアウトの見直しも含め、9月の教員会議や教授会で協議する。

2-(1). 各科目の授業改善計画書から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
「グループワークによる発表によって、苦勞したけれども理解が深まった」、「コメントカードに質問や感想を記入してもらい、次の講義でフィードバックすることで知識の定着化が図られた」など	
2-(2). 上記の事例を学部(群)全体でどのように共有して教育改善につなげていくか、具体的な進め方(5W1H等)を書いてください。	
双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会ですべて年度内にスケジュール化して実現する。	